



ADRC Highlights

Vol.46

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

May 1, 2002

➤ ADRCメンバー国カウンターパート紹介 第3回 □ 韓国行政自治省 (MOGAHA)

アジア防災センターは、23のメンバー国および4つのアドバイザー国と1つのオブザーバ機関から構成されています。各メンバー国のカウンターパート機関紹介のシリーズ第3回は、韓国の行政自治省について、紹介します。

韓国行政自治省 (Ministry of Government Administration and Home Affairs, MOGAHA) は、中央政府の行政管理を行っています。MOGAHAは、1998年2月28日に、行政省と自治省が統合して発足しました。MOGAHAの主な役割は、政府の総務管理を行うこと、政府組織やスタッフの管理を行うこと、地方自治を推進すること、災害から国家の生命や財産を守ることです。災害対策としては、人災および自然災害の防止とその対策、また防火対策の改善と緊急救援体制の構築などを行っています。下記に、機構図と緊急時の指揮体系図を示します。

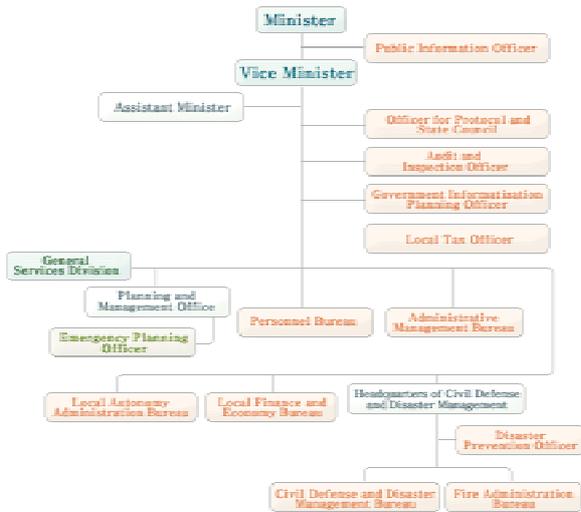


Fig. 1 Organization Structure

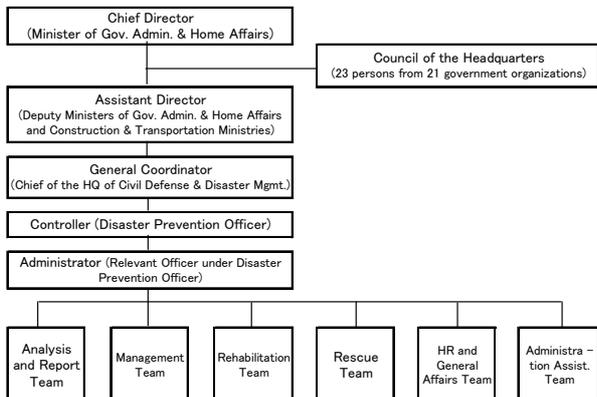


Fig. 2 Operational Hierarchy

また、MOGAHAの民間防衛および災害対策本部の元に関連機関として、国立災害対策研究所 (National Institute for Disaster Prevention, NIDP) が設立されており、韓国の災害対策のために重要な役割を果たしています。研究所では、防災、緊急対応、および災害復興に関する政策や技術を取り扱っています。また、災害の規模や被害の軽減を図るための、国際協力にも取り組んでいます。さらに詳しい情報は、MOGAHAのホームページへどうぞ。

<http://www.mogaha.go.kr/english/index.html>

(MOGAHA ホームページおよび ADRC 元客員研究員、Shim Keeoh 氏 (NIDP 研究員) からの情報を参照)

➤ ADRC スタッフ紹介 □ 研究員 中村 晃子 (なかむら あきこ)

2000年6月よりアジア防災センターに勤務している中村晃子と申します。以前は、大学で留学生の受入れ業務を行ったり、NGOで途上国の開発に携わったりしてきました。NGOのベトナム事務所に



駐在していた時に、メコン川流域の洪水で流されてしまった学校の建設等を行い、自然災害の恐ろしさを目の当たりにし、防災に関心をもつようになりました。アジア防災センターでは、主にメンバー国からの客員研究員の受入れプログラムを担当しています。客員研究員が6ヶ月の滞在中に日本の防災システムからできるだけ多くを学び、自国の防災に役立ててほしいと願っています。

私も管理課の田中さんと同様、震災を体験していない神戸っ子ですが、神戸の教訓をいかして、海外の防災に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

➤ アジアにおける最新災害情報 □ グルジアの首都で地震

2002年4月25日、グルジアの首都 Tbilisi 周辺でマグニチュード4.8の地震が発生しました。震源は Tbilisi からおよそ10~12kmの地点。現在までに建物の倒壊は報告されていませんが、4名がこの地震の影響で死亡したと伝えられています。およそ30名が負傷して手当を受け、3名が重傷を負っています。

(4/26 OCHA Situation Report より)

□ バングラデシュで嵐による被害

バングラデシュで、2002年4月26日から27日にかけて嵐による被害が出ています。地元の情報によると、少なくとも死者12名、負傷者200名が出ています。